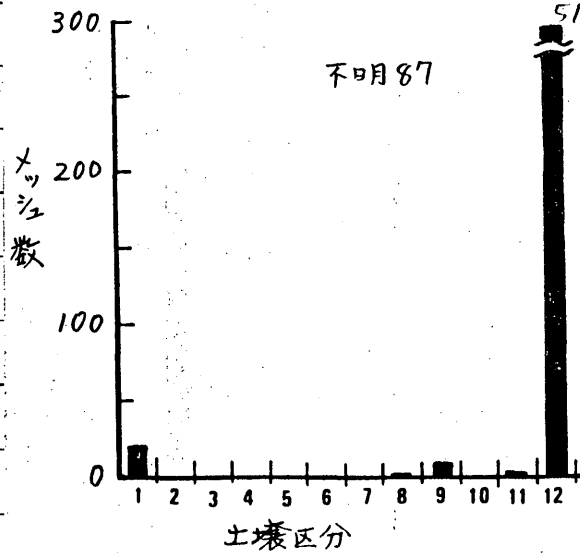
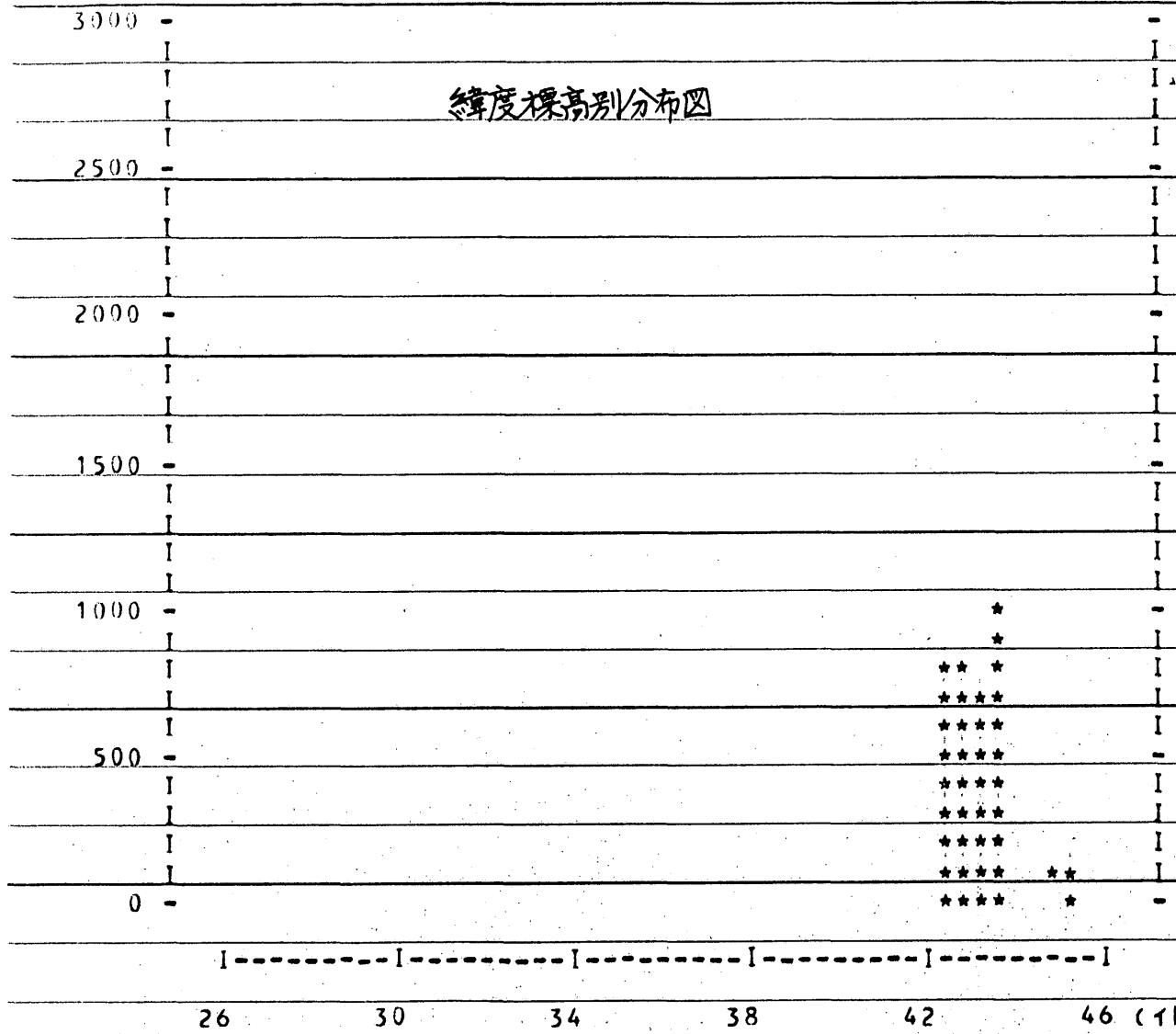


(ヒヨウ)

トドマツ植林

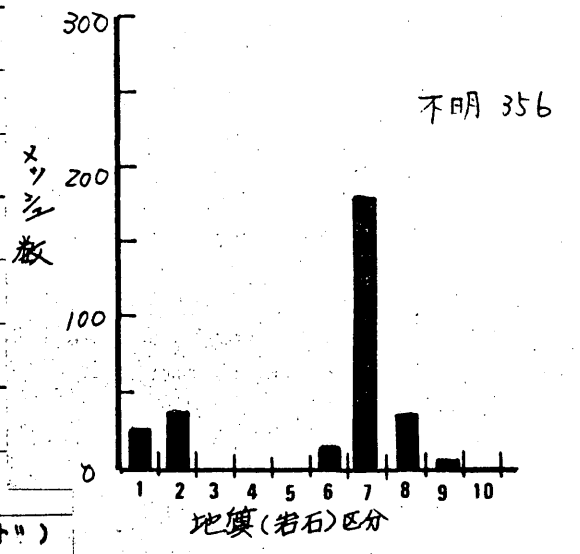
(*90105)

-----|-----|-----|-----|-----|



土壌区分別頻度図

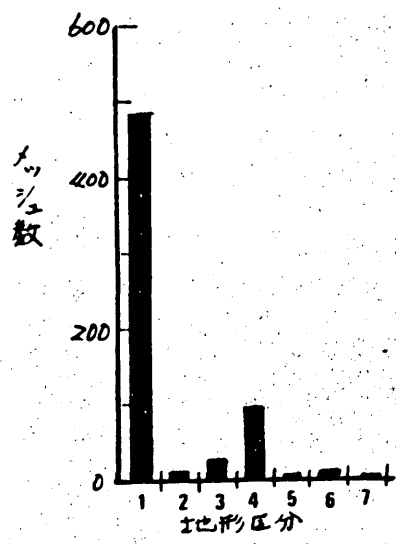
- 1 岩屑土
 - 2 未熟土
 - 3 黒ボク土
 - 4 乾性褐色森林土
 - 5 褐色森林土
 - 6 湿性褐色森林土
 - 7 ポドソル
 - 8 赤黄色土
 - 9 低地土
 - 10 グライ土
 - 11 泥炭土
 - 12 その他
- (凡例改訂が行われ
たこと。北海道の
4, 5, 6 を含むと
考えられる。)



地質(岩石)区分別頻度図

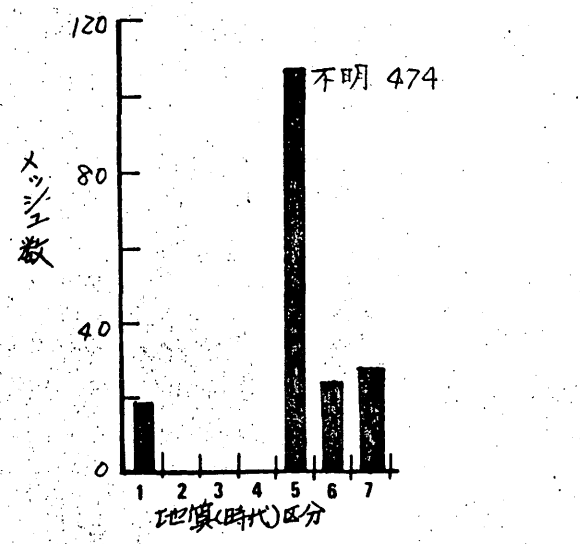
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

-----|-----|-----|-----|-----|



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

落葉針葉樹植林

Deciduous conifer plantation

〈相観〉落葉針葉樹の高木林, 亜高木林, 低木林.

〈生育地〉ブナフラス域上部から亜高山帯にかけてみられる。低海拔地に一般的なスギ, ヒノキ, アカマツなどの植林が生育困難なる高海拔地に集中している。カラマツは自然植生としては本州中部の亜高山帯の極端な乾性立地に生育している。

〈種組成〉カラマツの林冠は疎開しているため, 林内は明るく, 林床は一般に草原的な組成を呈することが多い。ススキやモミジイナゴなどススキ群団の種が生育する場合, ススタケやミヤコササ, フライササ類植物が密生する場合などがある。また長年下伐りが行われなかった林分では, スナラ, シデ類, ノリウツキなどの周辺の森林種生を構成する落葉広葉樹が生育していることがある。

〈群落の特徴〉日本で唯一種の落葉針葉樹であるカラマツの植林である。ブナフラス域から亜高山帯にかけての高海拔地に集中し, 北海道では最も一般的な植林である。

〈その他〉カラマツ植林は施業方法によっては, 立地の著しい復元を招くことがある。カラマツが堅植され, 下枝伐りや間伐が行われないと, 暗い林床には落葉が未分解のまま堆積し, 植被はほとんどなくなる。

*90200 落葉針葉樹植林

県別メッシュ数

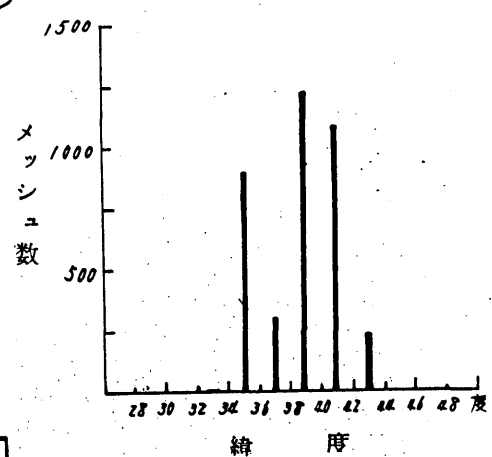
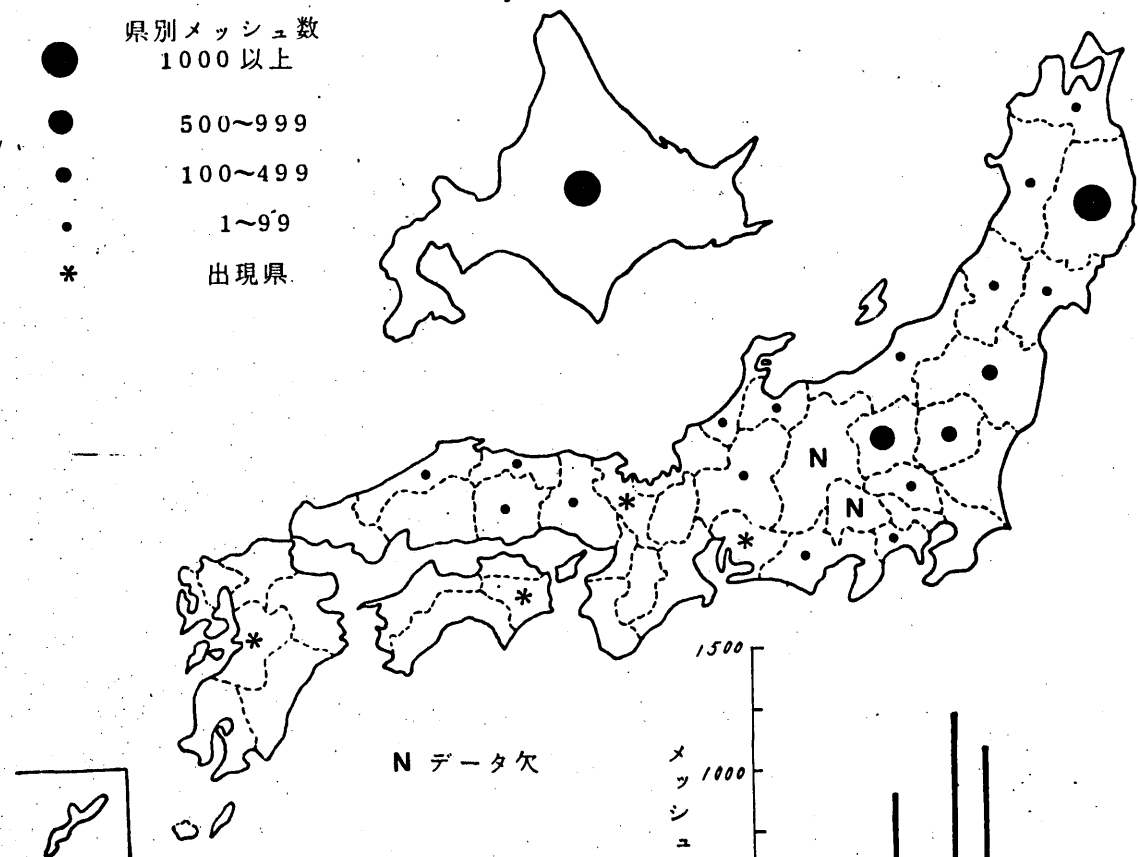
1000以上

500~999

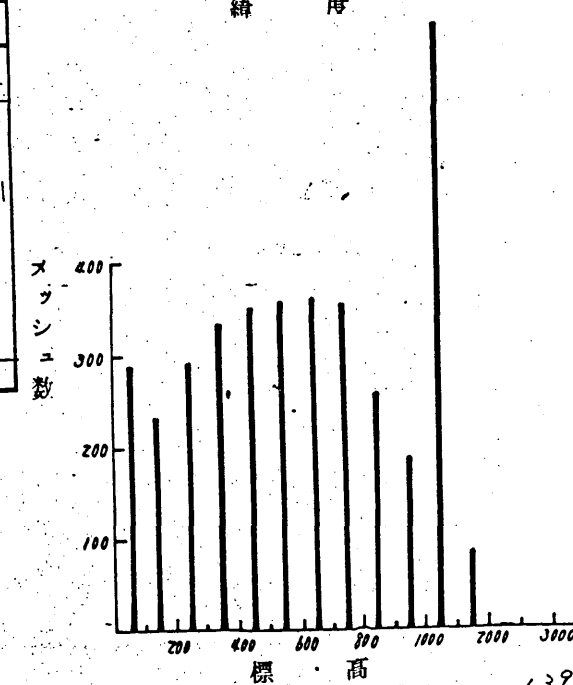
100~499

1~99

* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
90200A	落葉針葉樹植林	1485	北海道, 福島, 静岡, 熊本
90201B	カラマツ植林	2302	青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 栃木, 群馬, 埼玉, 神奈川, 新潟, 富山, 石川, 岐阜, 愛知, 京都, 兵庫, 鳥取, 島根, 岡山, 徳島
	計	3787	



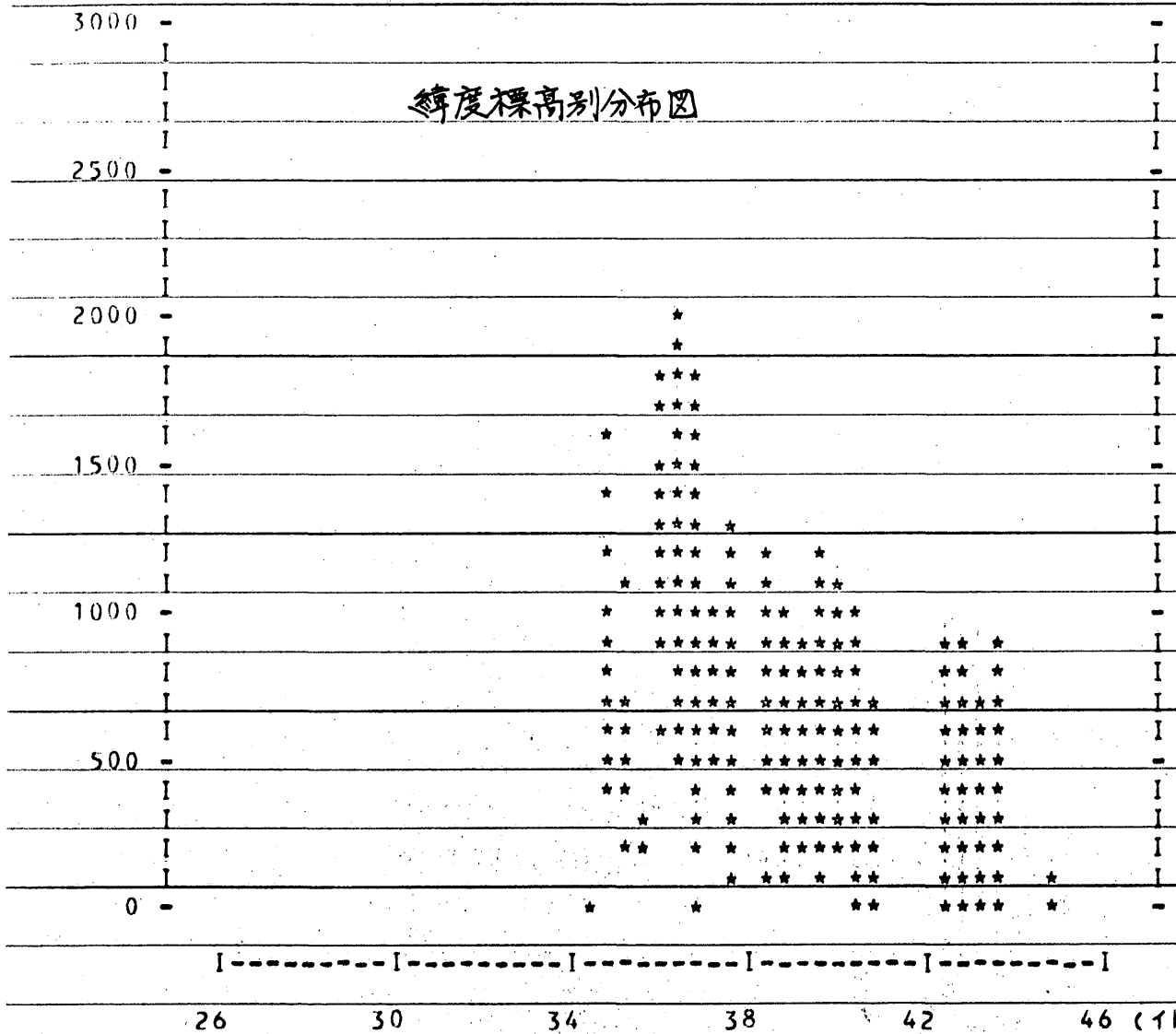
(ヒヨウコウ)

落葉針葉樹植林

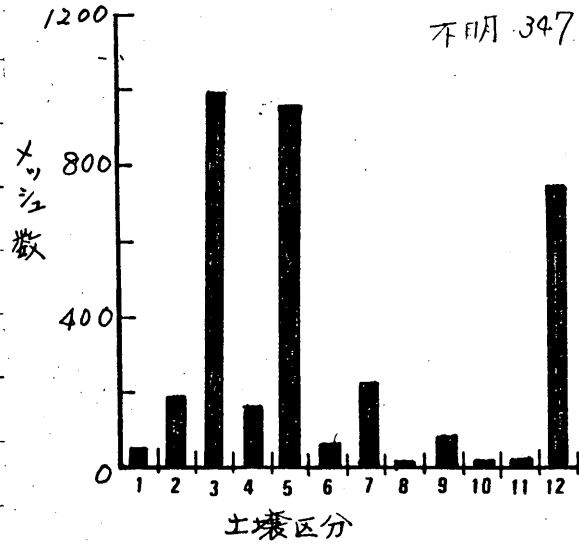
(*90200)

-----|-----|-----|-----|-----|

緯度標高別分布図



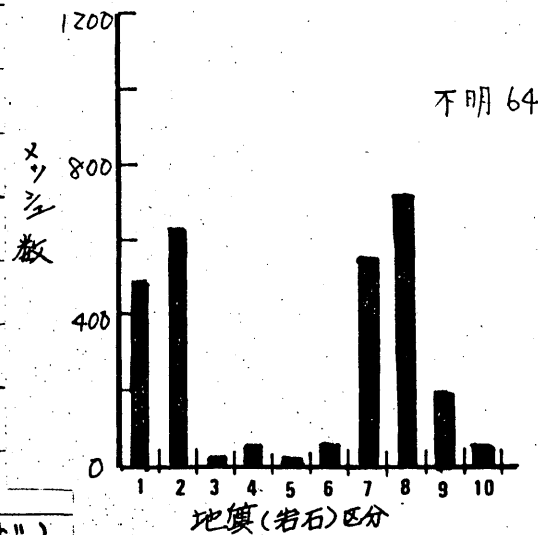
土壌区分別頻度図



- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ボドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他

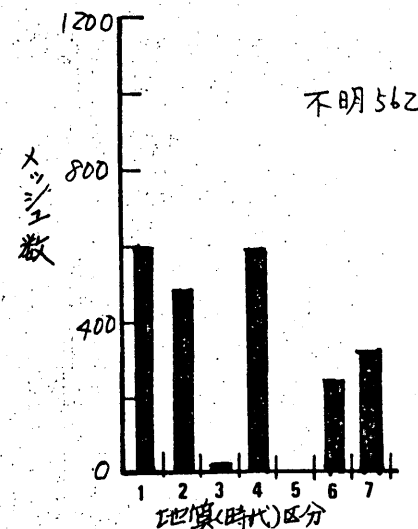
(凡例改訂が行われ
たところ、北海道の
4, 5, 6 を含めて
考えられる。)

地質(岩石)区分別頻度図



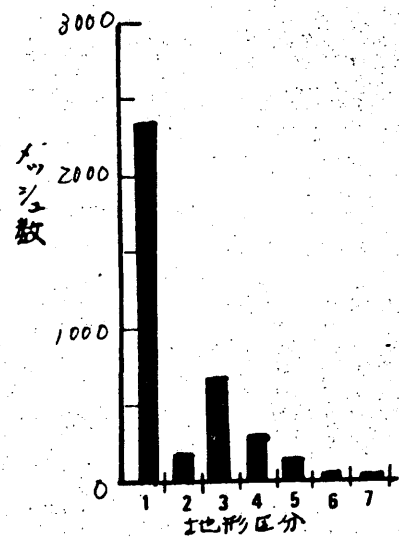
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

常緑果樹園

Evergreen orchard

<相観>常緑広葉樹の低木林。

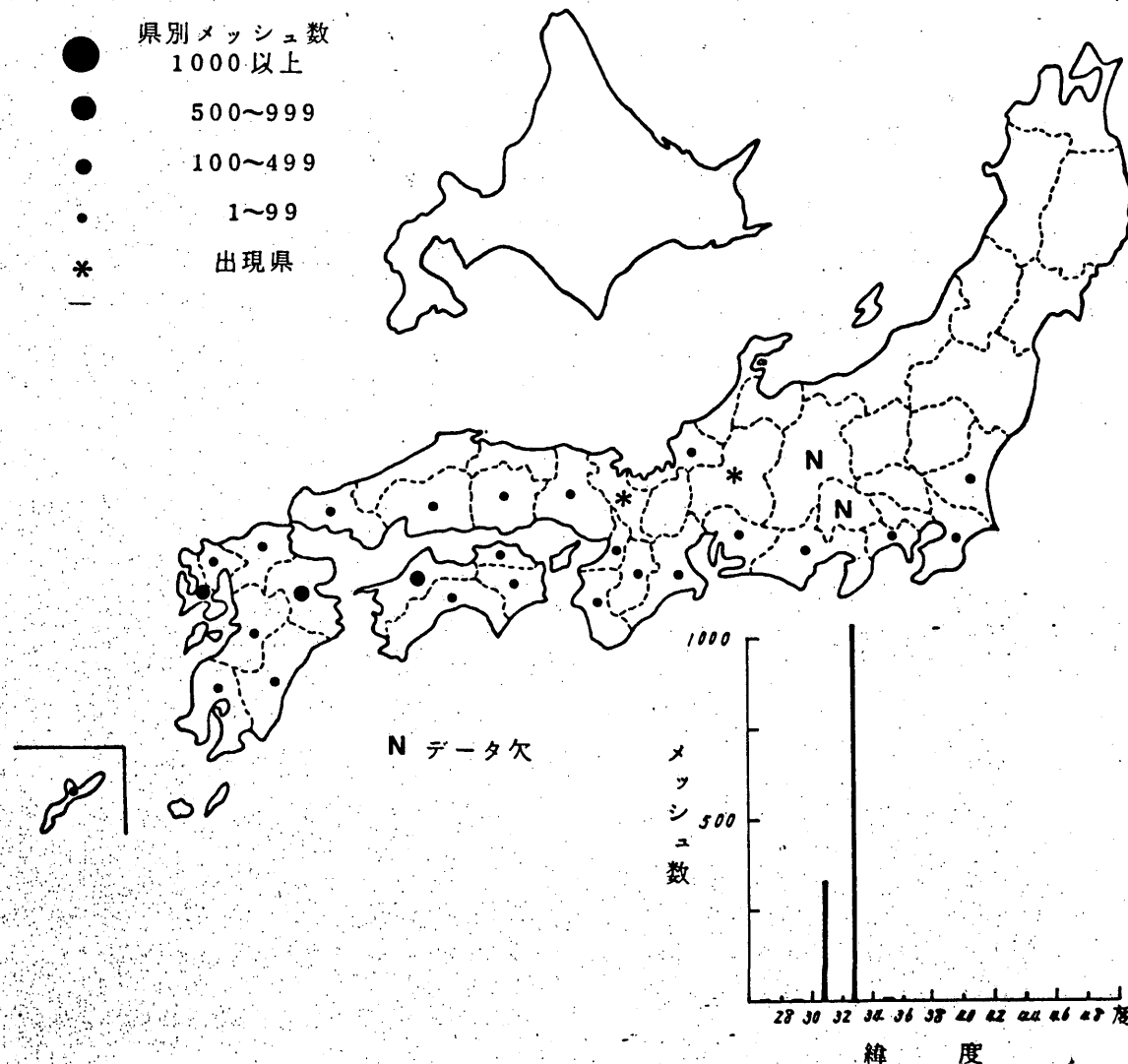
<生育地>ヤブツバキクラス域の沿海部に開かれている。丘陵地や山脚部の斜面を階段状にした園地に、温州ミカン、ビワなどが栽培されている。畑地に比べて耕耘、中耕の回数が少なく、施肥も少ない。

<種組成>栽培植物としては、温州ミカンが最も代表的なものであり、その他、ハッサク、ナツダイダイ、ポンタシなどの柑橘類やオリーブ(小豆島)、ビワなどが栽培されている。下層は畑地に比べて管理が粗放なため、スギナ、カラスビシャク、ヨメナ、サトメグサ、オヘビイサゴ、ギンギシ、コナスビなどの多年生草本植物が生育している。

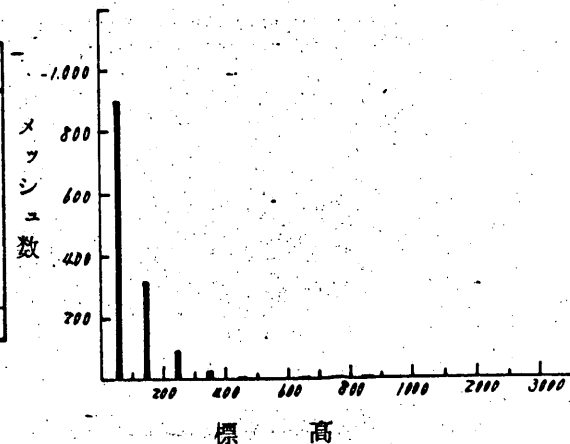
<群落の特徴>ヤブツバキクラス域の沿海部の丘陵地斜面などを利用している。温州ミカンが最も広く栽培されている。

*90800 常緑果樹園

- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県
-



コード	群落名	メッシュ数	出現県
90800	常緑果樹園	1403	茨城, 千葉, 神奈川, 福井, 岐阜, 静岡, 愛知, 三重, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山, 岡山, 広島, 山口, 徳島, 香川, 高知, 福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄
	計	1403	

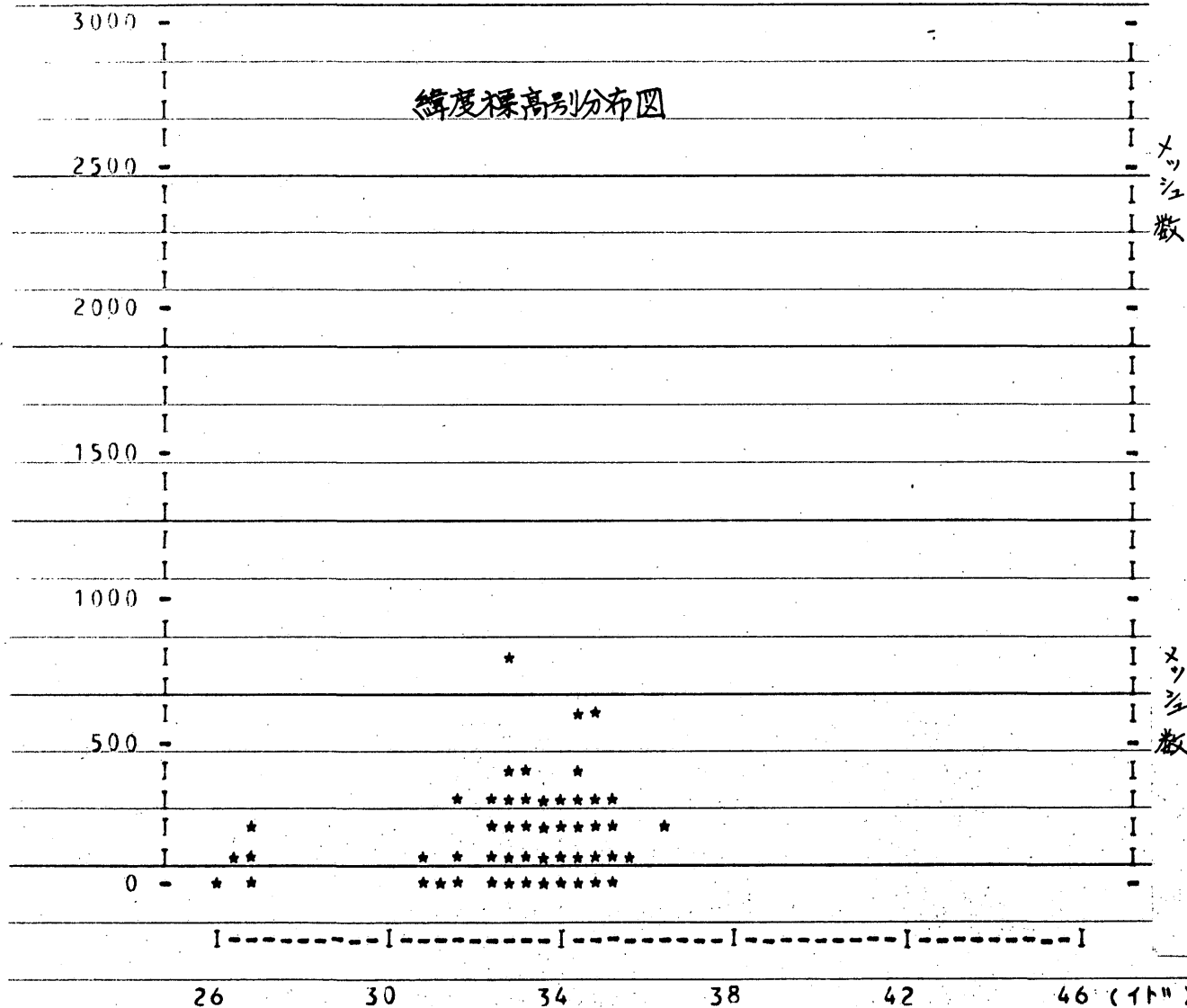


(七ヨリ)

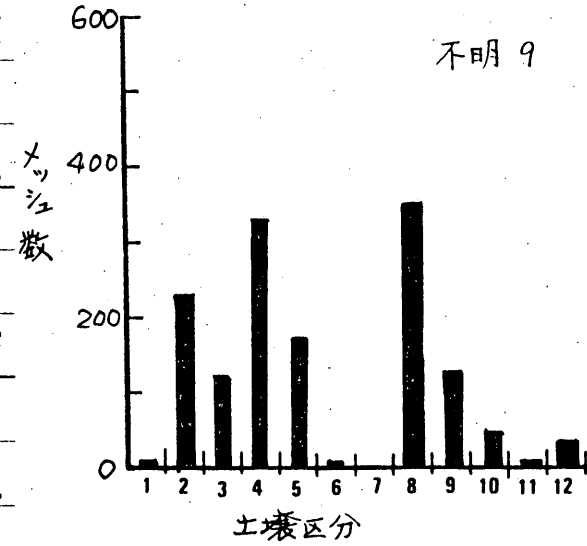
常緑果樹園

(*90800)

緯度標高別分布図

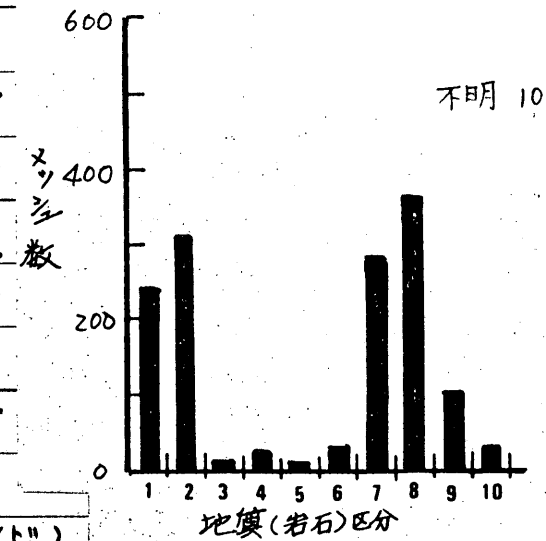


土壌区分別頻度図



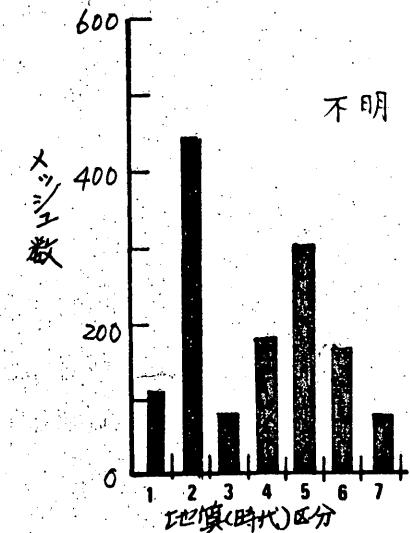
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



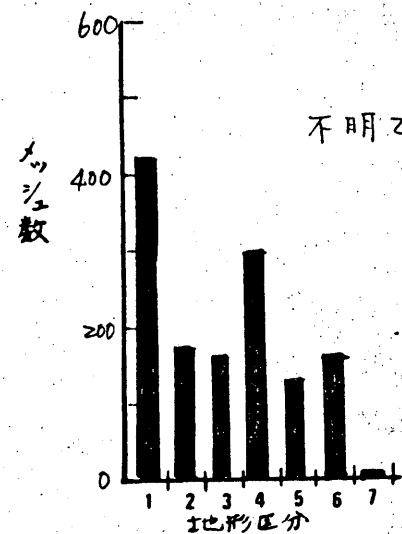
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

<相観> 一年生または多年生草本植物の人工緑地。

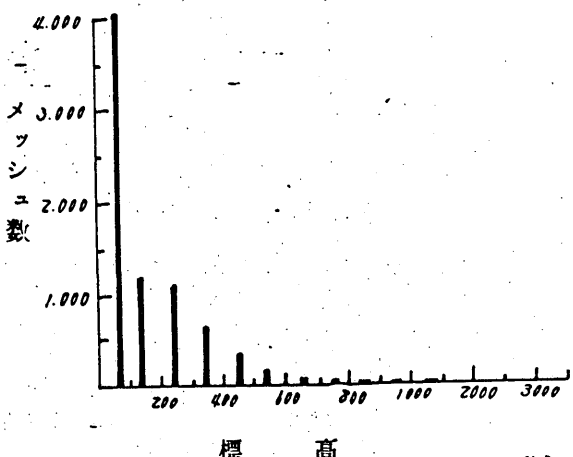
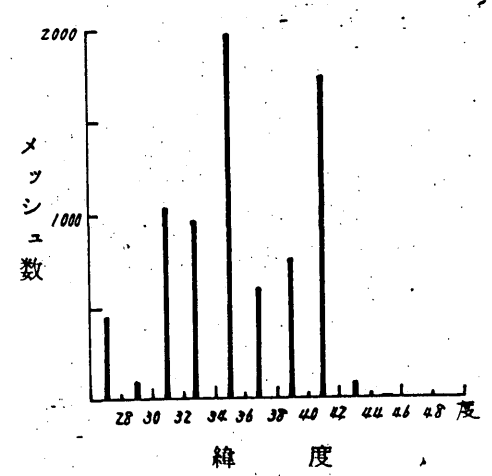
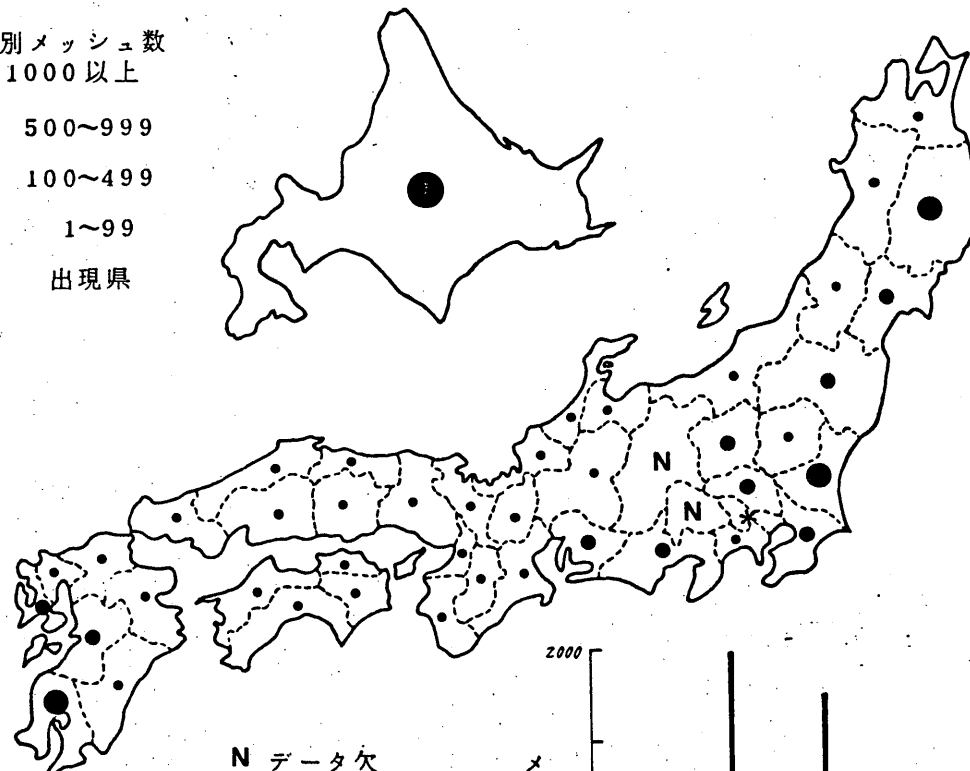
<生育地> 日本全国の台地、平野の自然堤防を中心とする弱乾性の土地、旧砂丘地帯など、水田化に不適当なやや乾性の緩傾斜地に、畑地が開かれている。平野部においては、近年、水田から畑への転換が多くなってきている。畑は畑作物栽培のために、耕起、中耕、施肥、除草などの集約的管理を受け、著しく富栄養化した特殊な立地である。

<種組成> 畑作物としては、バレイショ、カンショなどのいも類、オオムギ、コムギなどの麦類、キャベツ、ハクサイ、ニンジンなどの野菜類などが一般的であり、その他タバコ、ビートなどの工業作物などが生育適地に栽培されている。これらの畑作物に混って生育する畑地雑草は、好栄養性の一年生草本植物が多く、発芽から開花結実までの期間が短い、脱粒性が著しく高い、小型で除去されにくく、根茎の切断によって栄養繁殖するなどの性質を有している。日本の畑地雑草群落は組成により次の4つに大別されている。北海道、本州などのアブラムシ域の畑地ではアキアタコウジュ、ハチジョウチ、タンソバ、ソバカスラなどが生育するアキアタコウジュ-ハチジョウチ群落分布している。本州、四国、九州のヤブタバキクラス域にはクラスビシヤフ、オオノフネコリ、ノボロキク、ホトアノサ、ノゲシなどを標徴種とするクラスビシヤフ-クニシキソウ群落が多くみられ、特に近畿以西のヤブタバキクラス域ではコミカンソウ、ウリクサで徴種されるコミカンソウ-ウリクサ群落分布している。琉球ではハマクワカタールリハコベ、ウレノヲケダクサ、リュウキュウコスミレ、イヌノフブリ、オオエノコロなどの生育するハマクワカタールリハコベ群落のみみられる。

<群落の特徴> 集約的管理を受ける畑地に生育する雑草群落である。全国では4群落に分けられている。

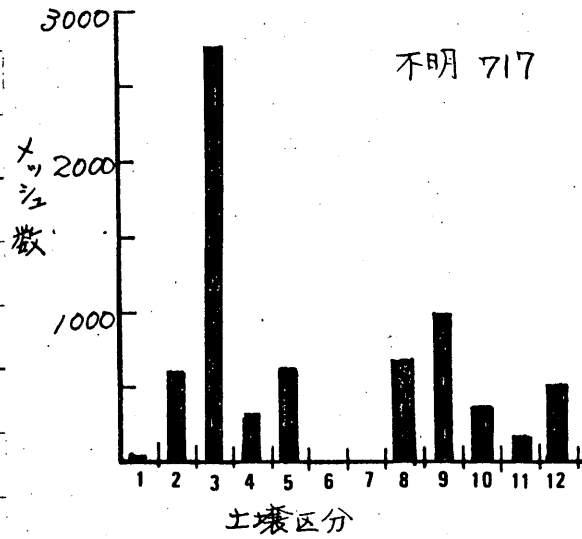
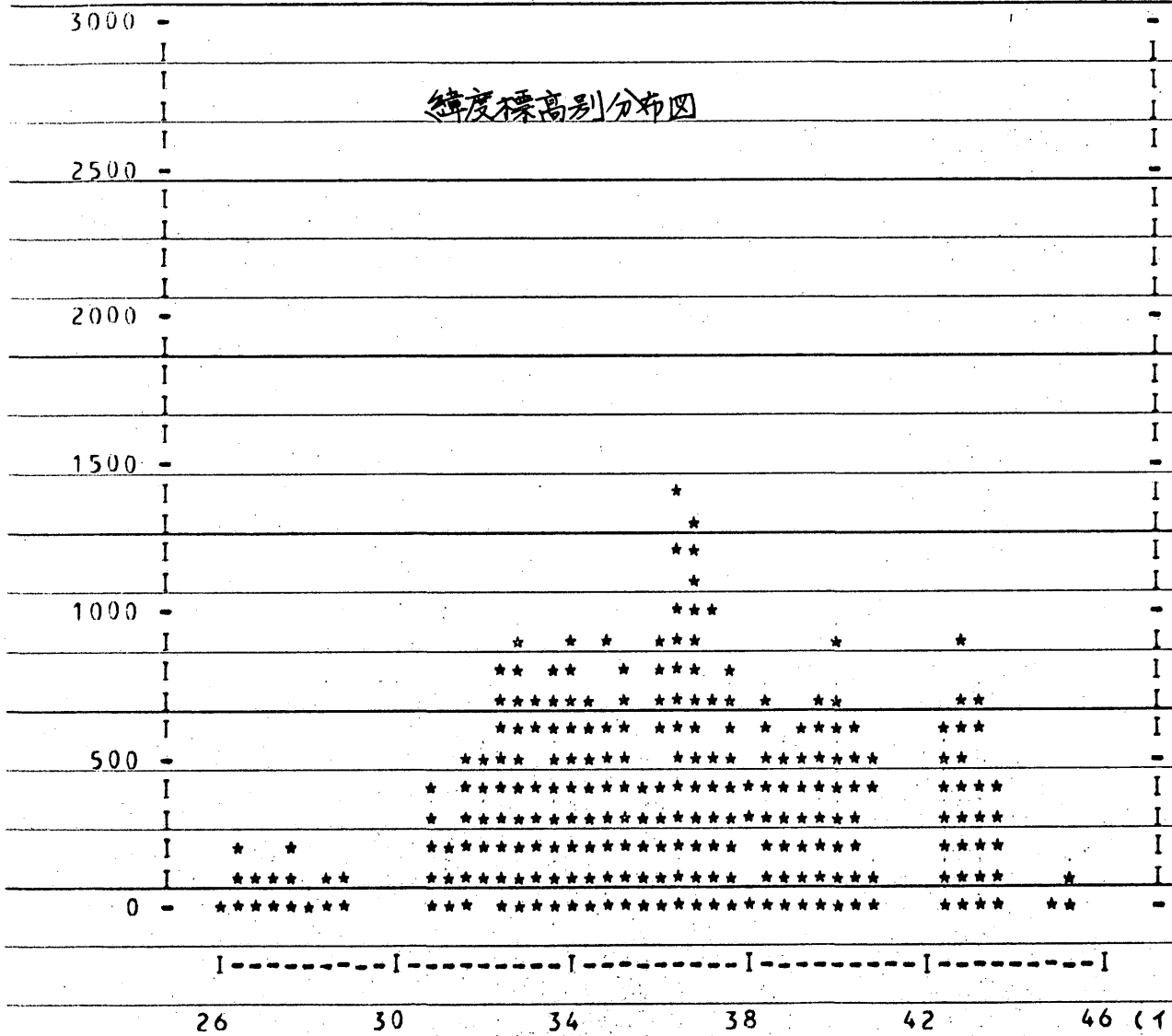
*91300 畑地雑草群落

- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県



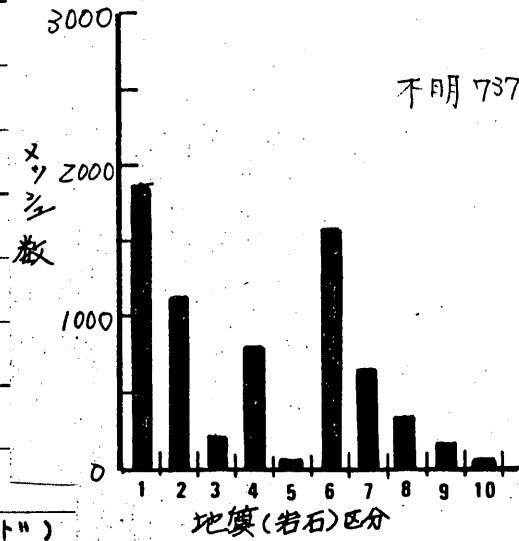
コード	群落名	メッシュ数	出現県
91300A	畑地雑草群落	5695	青森, 岩手, 宮城, 秋田, 福島, 茨城, 群馬, 埼玉, 千葉, 神奈川, 新潟, 富山, 福井, 岐阜, 静岡, 愛知, 三重, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山, 岡山, 山口, 広島, 徳島, 香川, 愛媛, 高知, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島
91300B	畑地	2134	北海道, 山形, 栃木, 石川, 滋賀, 鳥取, 島根, 福岡
91300C	畑	-	
91300D	耕作畑雑草群落	0	東京
	合計	7819	

緯度標高別分布図



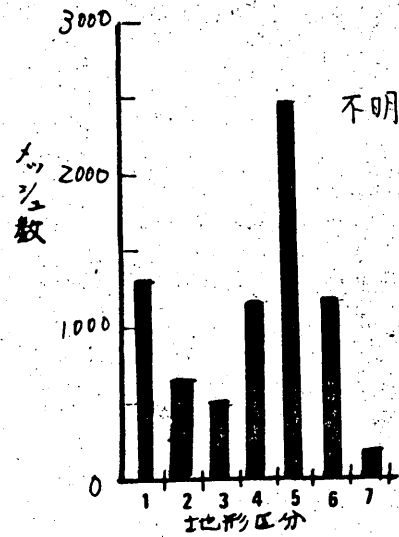
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



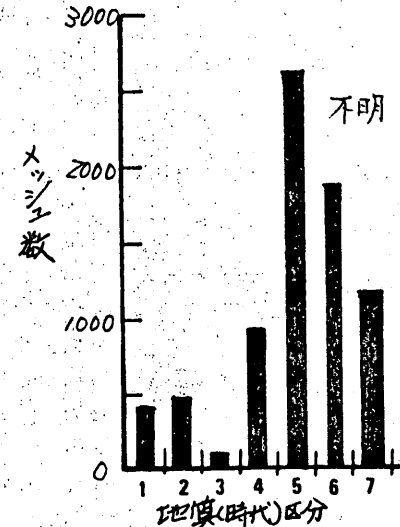
地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

牧草地

Cultivated meadow

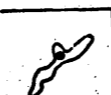
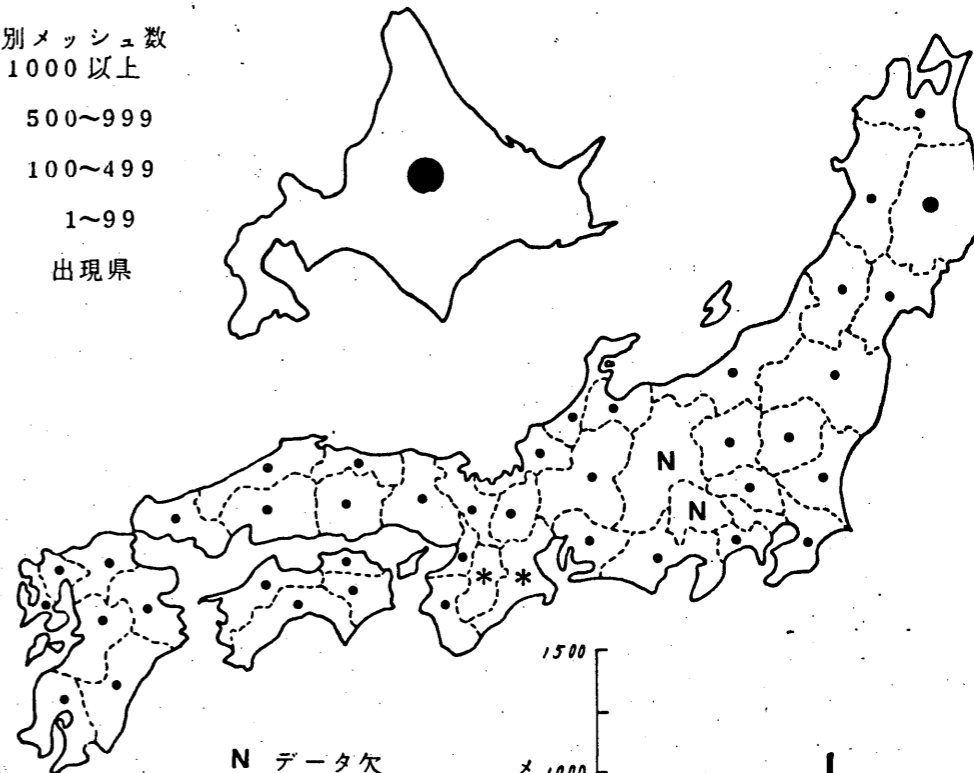
<相観> 一年生草下には多年生草本植物の草原

<生育地> フナフラス域を中心とする準平原状のなだらかな山頂部、丘陵、台地などの緩傾斜地には、古くから牧草地が造成されている。また同様の緩傾斜地や河川敷などの平坦地にはゴルフ場が、都市周辺には飛行場や公園が造成され、人工草地化されている。

<種組成> 牧草地には在来種によって構成され定期的な火入れ、刈り取りによって維持される半自然草原と、外来種の播種によって形成される人工草地とがある。半自然草原の代表的なものとしてススキ草原（ススキ群団を参照）、シバ草原がある。シバ草原には踏み付けが頻繁な場合チドメフサなどが少被度で混生するに過ぎないが、放置されるとヨモギ、カタバミ、オオバコ、ススキ、テッポウなどが混生するようになる。人工草地の牧草地には、チモシー、ケンタッキー31フェスフ、オーチャードグラスなどが播種されるが、寒冷地ではチモシーが、暖地ではイタリアンライグラスが多い。その他、ゴルフ場や公園にはシバが多く植栽され、さらに寒冷地ではケンタッキーブルーグラス、暖地ではコウライシバも植栽、播種されている。また校庭、運動場などにはギョウギシバが、飛行場にはライフトンシバ、ベントグラスなどが植栽される。

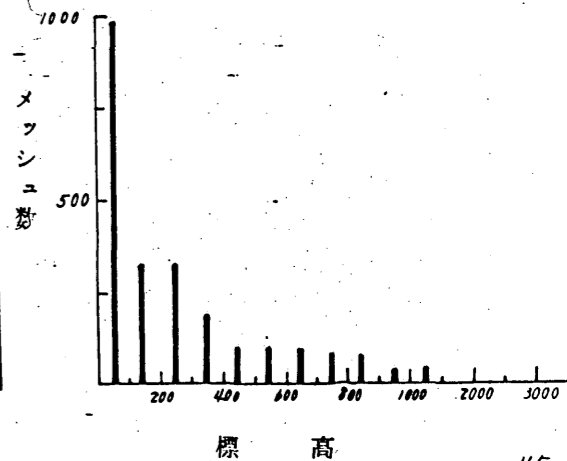
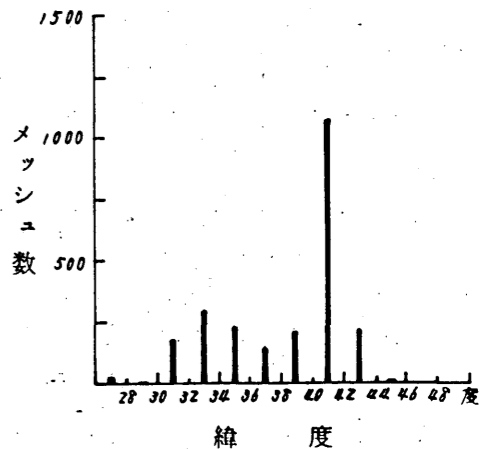
*91500 牧草地

- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県



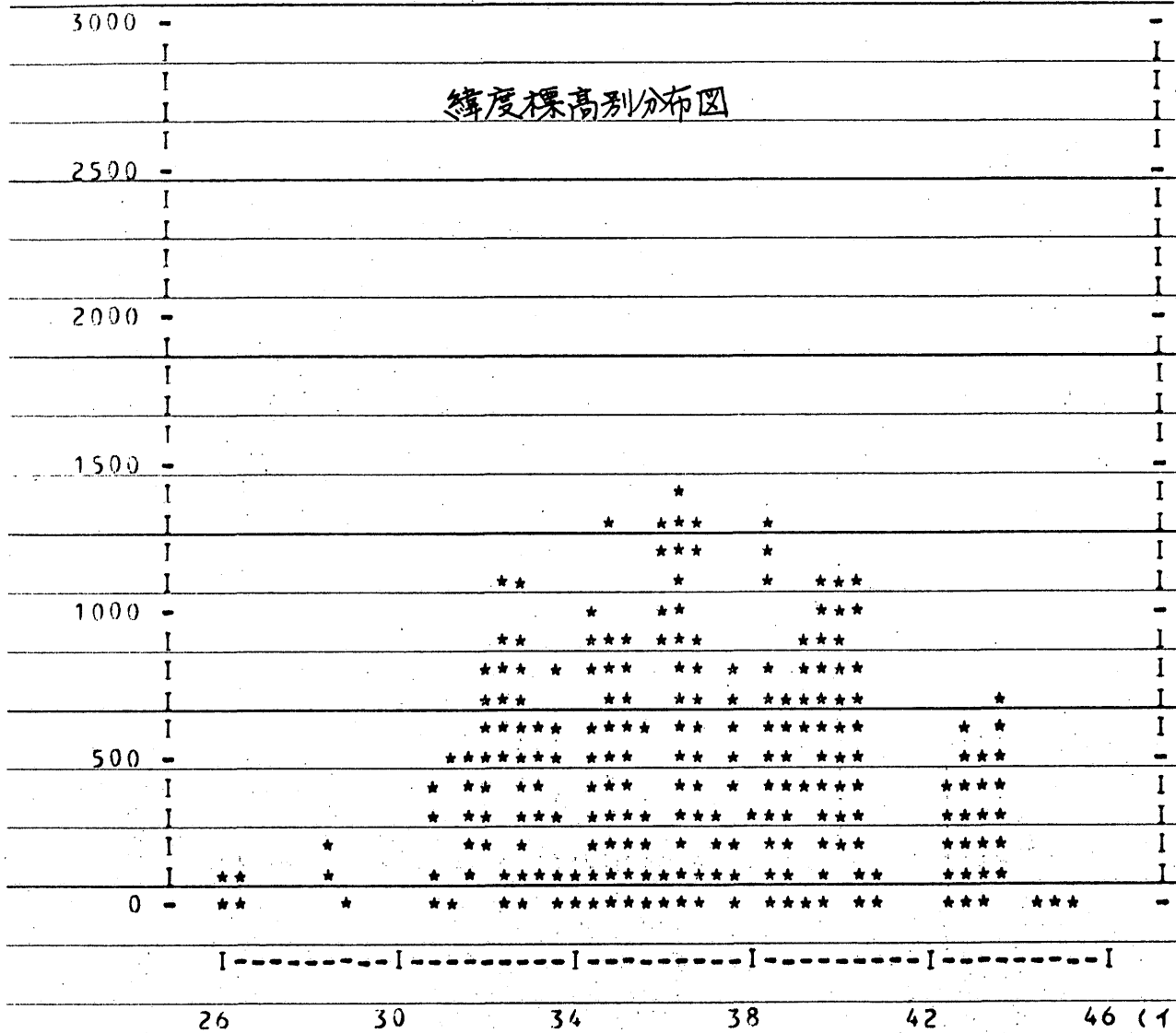
N データ欠

コード	群落名	メッシュ数	出現県
91500A	牧草地	1760	北海道、青森、宮城、秋田、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、富山、石川、福井、岐阜、愛知、京都、大阪、奈良、和歌山、岡山、広島、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、長門、熊本、大分、鹿児島、沖縄
91500B	ゴルフ場	318	北海道、宮城、茨城、栃木、埼玉、千葉、新潟、富山、石川、福井、岐阜、愛知、滋賀、大阪、兵庫、和歌山、鳥取、岡山、広島、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、熊本、宮崎
91500C	人工草地	65	神奈川県、静岡県、三重、高知県
91500D	牧草地、ゴルフ場、飛行場	25	鳥取
91500E	ゴルフ場、公園地、飛行場	—	
91500F	牧草地、人工草地	0	滋賀
91500G	牧草地、ゴルフ場、林場	11	山形
91500H	飛行場	5	北海道
91500I	牧草地、飛行場	9	新潟
91500J	ゴルフ場、飛行場、公園地	3	長野
91500K	牧草地、ゴルフ場	229	岩手、沖縄
	計	2425	

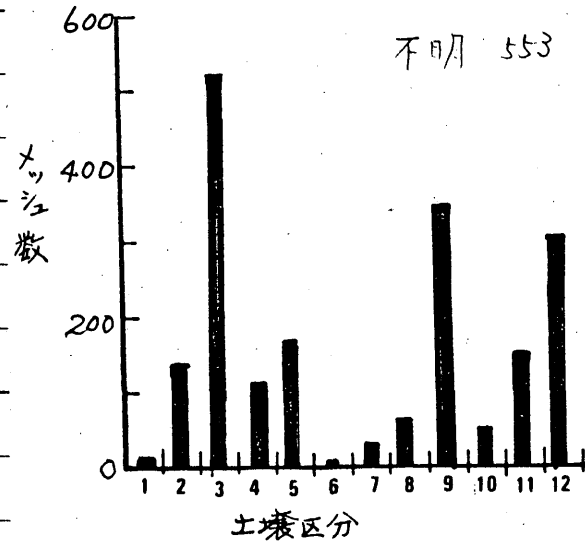


* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数の1/2を各群落

緯度標高別分布図

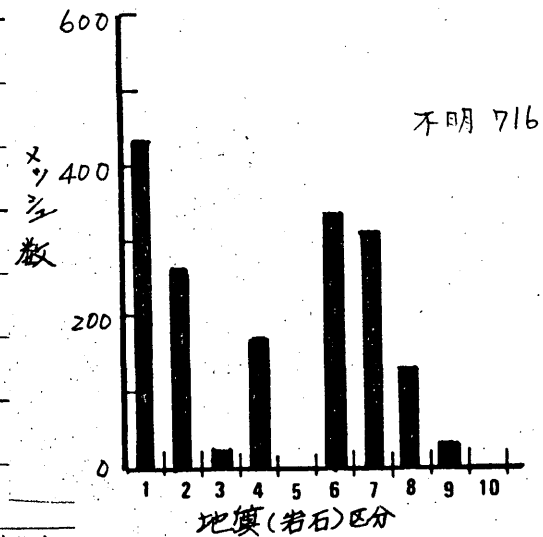


土壌区分別頻度図



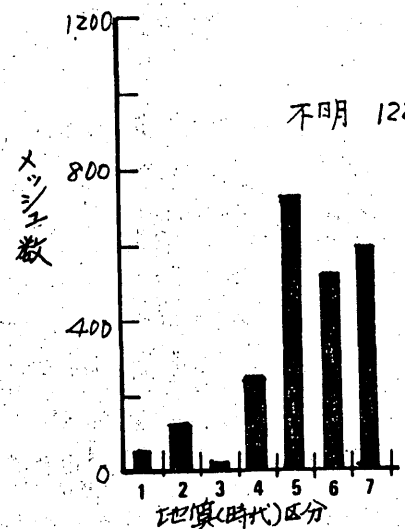
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



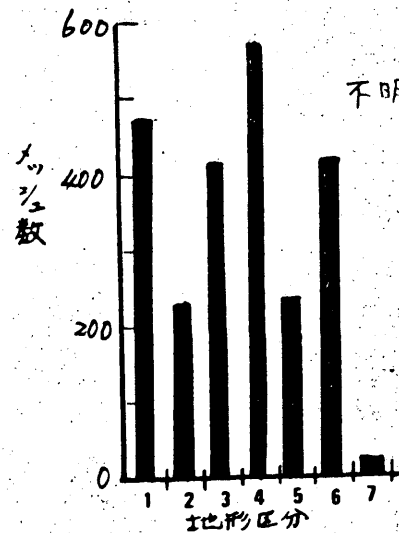
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

<相観> 一年生草本植物の人工排水群落。冬季は一般に排水，休耕
され，夏季と異なる一年生草本植物の草原が形成される。

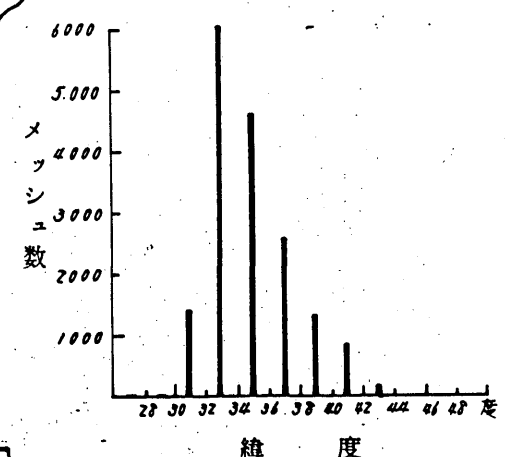
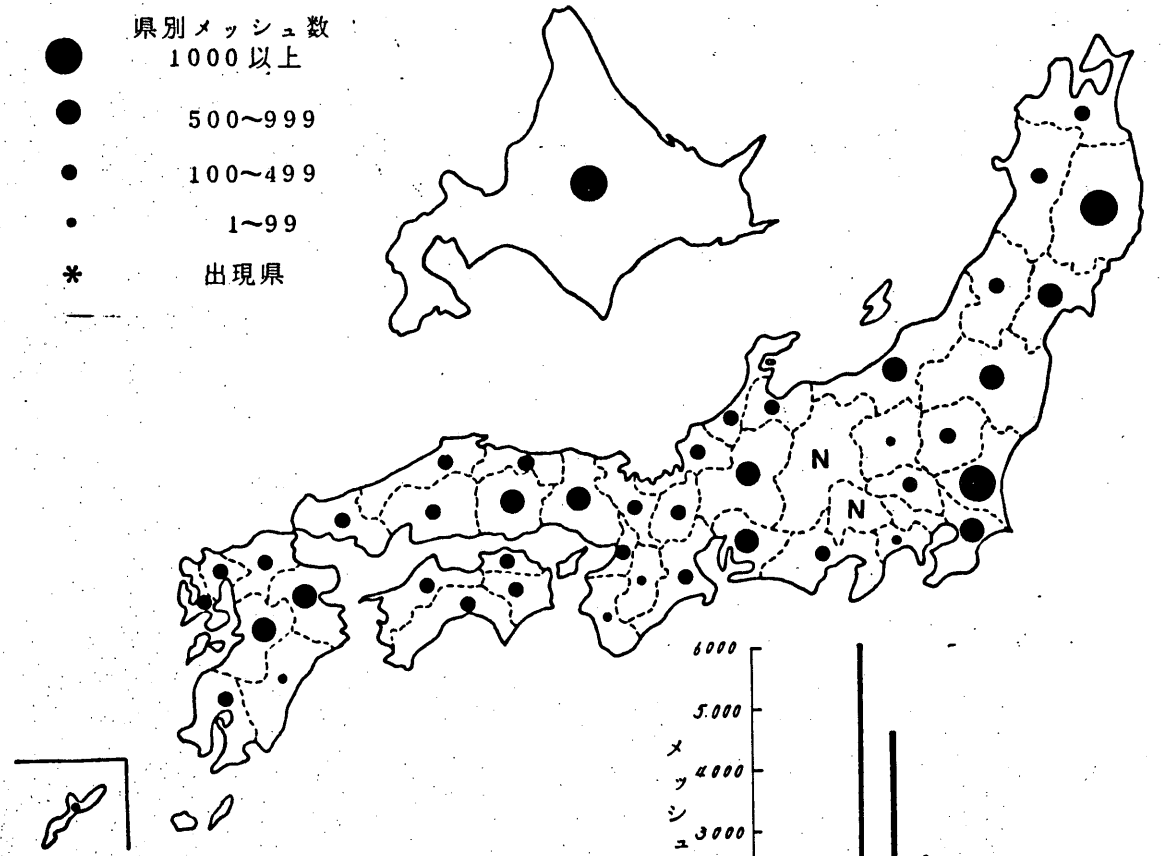
<生育地> 谷底平野，後背湿地，旧河道，三角州など，全国の低湿
地に開かれた水田にみられる。水田は耕作期間の春季には耕起，施肥，
湛水など，夏季には中耕，除草などの集約的管理を受け，休耕期間の
冬季には排水される特殊な立地である。耕作期間と休耕期間では環境
条件が異なり，特に排水後湛水する乾田では水分条件が大きく異なっ
ている。湛水している間は土壌にフライ層が形成される。また，多量の施肥
を受けると，土壌は著しく高栄養化している。近年，山間や台地の
谷底平野，都市近郊の三角州などの水田では耕作放棄されるところか
増加し，水田放棄地雑草群落におきかわっている。

<種組成> 耕作期間と休耕期間では異なる植物群落が生育する。耕
作期間には，アブノメ，アキアシ，オオアブノメ，タバサアヲなど
を特徴種とするフリカワコフキ群落が生州から九州まで広くみら
れ，琉球にはアブノメ，アカウキクサなどを特徴種とするマルミスア
タコナギ群落が生育する。休耕期間には排水後も冠水している湿田
ではタカラシを特徴種とするススメノテウノウタガラシ群落か，排
水後湛水する乾田ではコオニタビラコ，ノボタン，ケキフネノボタン
などを特徴種とするノミノフスメケキフネノボタン群落が生州から
九州まで広い範囲に生育している。これらの水田雑草群落の構成種は，発芽から
結実までの期間が短い一年生草本植物や，小型で陰湿これにくいか，
または耕起によって根茎が切断されることにより繁殖する多年生草
本植物である。

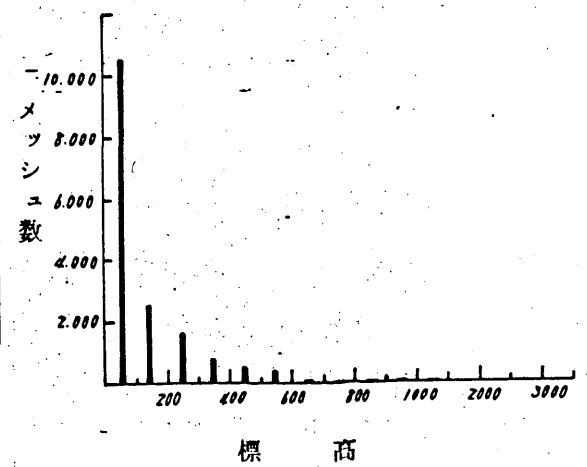
<群落の特徴> 全国の水田にみられる雑草群落である。地域，季節
により数種の群落が生育している。

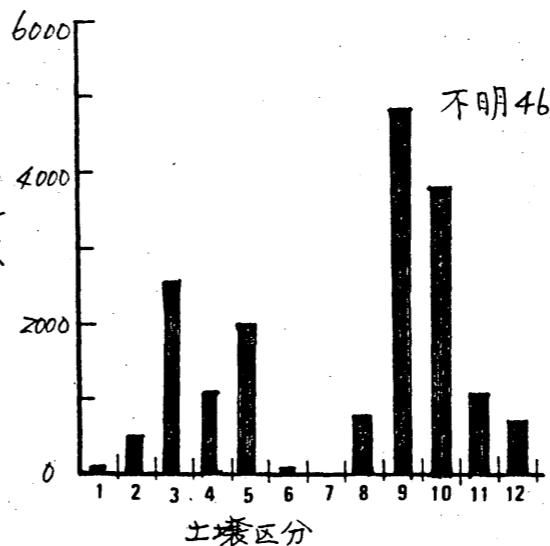
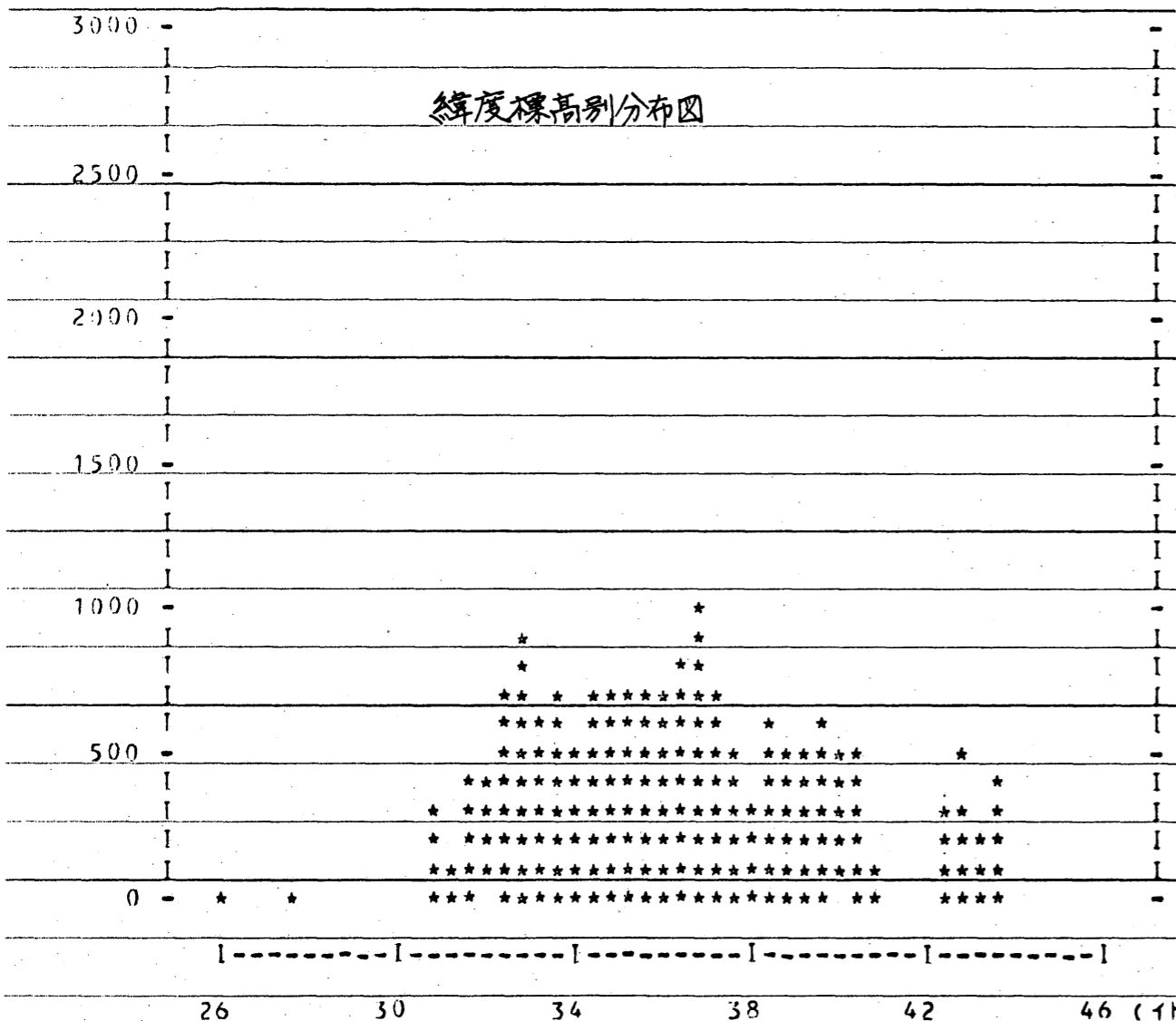
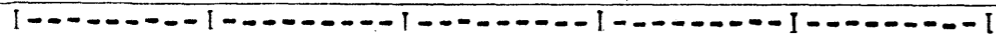
*91600 水田雑草群落

- 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県



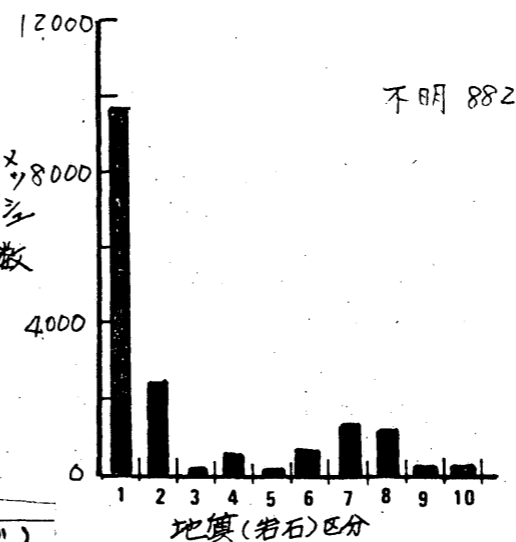
コード	群落名	メッシュ数	出現県
91600A	水田雑草群落	13806	青森, 岩手, 宮城, 秋田, 福島, 茨城, 群馬, 埼玉, 千葉, 神奈川, 新潟, 富山, 岐阜, 静岡, 愛知, 三重, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山, 岡山, 広島, 山口, 徳島, 香川, 愛媛, 高知, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄
91600B	水田	3188	北海道, 山形, 栃木, 石川, 福井, 静岡, 滋賀, 鳥取
	計	16994	





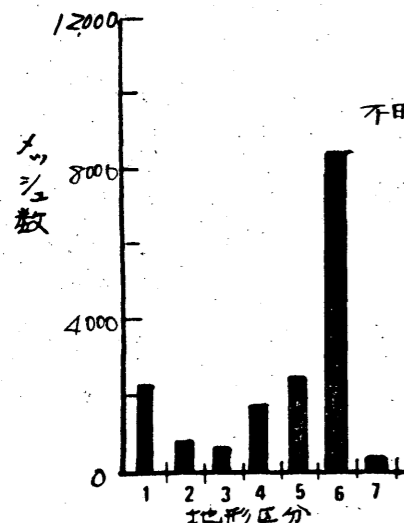
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他



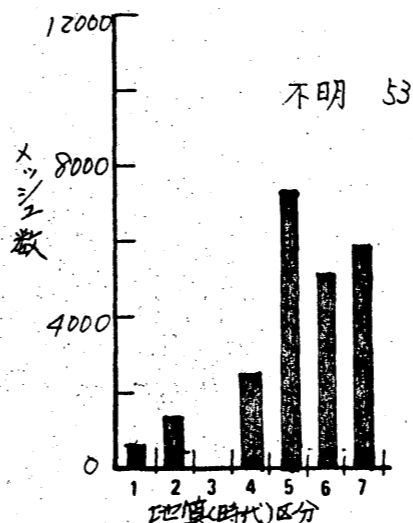
地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他